

2007 年秋学期のまとめ

提出日: 2008/01/11

氏名: 池上 真

■ 秋学期のクラスについて

2007 年の 8 月からギャローデット大学大学院においてソーシャルワークの基礎を学んできた。前学期に受講したクラスは以下の通りである。

- 1、Research Methods I
- 2、Human Behavior & Social Environment I
- 3、Social Policy & Social Services
- 4、Social Work Practice I
- 5、Social Work Practice I Laboratory
- 6、Foundation Field Practicum I
- 7、Foundation Field Practicum I Laboratory

以下、それぞれのクラスでどんなことを学んだのか具体的に書いていきたい。

1、Research Methods I

このクラスは、ソーシャルワークの仕事をする上で求められる社会調査法の基礎を学ぶものである。具体的には、結果の分析法により2つに大別し、質的調査と量的調査があり、それぞれの中にさらに細かく調査の手法によって分かれている。質的調査とは、インタビュー、観察などの手法を用いるが、量的調査は、統計やデータの手法を用いるものである。すべての調査法には必ず、長所・短所がある。また、調査を行うにあたっては、回答者の個人情報を守り、人権に配慮するという高い倫理性が求められている。ギャローデット大学大学院ソーシャルワークにおいては、卒業論文の提出の必要はないが、今後、社会の実態を捉えるための調査を行うとき、この知識が大いに役立つものと信じている。

2、Human Behavior & Social Environment I

このクラスは、文字通り、人間行動と社会環境の理解について深めるものである。ソーシャルワーカーの業務は、個別援助から社会福祉制度の改善など多岐にわたるが、どのレベルにおいても、対象となる人々をありのままの姿で受け入れ、かつ、彼らの置かれている社会的な地位や環境、そして、それらの相互関連について知識を深めておく必要がある。アメリカ社会のダイナミズムを、民族・人種・ジェンダーなど多文化の視点から考察することが重要であるということを学んだ。

3、Social Policy & Social Services

このクラスは、アメリカの一般的な社会福祉制度に関する法律を学ぶものである。また、このクラスでは、教授の講義だけでなく、ディベートや学会などの機関紙の記事の要約の発表などが課された。ディベートでは、個々に割り当てられた論題(たとえば、アメリカの国民健康保険制度を導入すべきか否か)をもとに自分の立場(肯定側か否定側か)を主張するため、インターネットや図書館を活用するなど、自分の主張を支える有利な資料を用意したりした。また、期末の発表では、親の事情で育てられない赤ちゃんを受け入れる、いわゆる「赤ちゃんポスト」制度について調べ、発表した。アメリカでは、ほとんどの州において「赤ちゃんポスト」の設置が認められており、この法律に関わる参考文献はアメリカ社会の文化や歴史を考察するための重要な手がかりを与えてくれた。

4、Social Work Practice I

5、Social Work Practice I (Laboratory)

このクラスでは、社会福祉に関わる様々な問題に対処する援助方法を学ぶものである。教授の講義とディスカッションを通じて、ソーシャルワーカーとして、どのようにクライアント(利用者)とコミュニケーションをとればいいのかについて、知識と理解を深めた。また、面接・観察・記録などの援助技術についても、様々な事例を取り上げながら、ロールプレイの演習を通じて、対人援助技術の基礎を習得した。

6、Foundation Field Practicum I

7、Foundation Field Practicum I (Laboratory)

このクラスは、社会福祉施設などにおける現場実習などを通して、講義と演習などで学んだ知識と技術を実際に活用し、ソーシャルワーカーとしての専門性を高めるものである。この秋学期は、「Advocacy for Justice and Education」という非営利の団体で実習をさせてもらった。その団体は、ワシントン DC に住む低所得層の人たちの社

会参加を支援するための活動を行っている。そこで、僕は、実習生として、同僚に付き添われながら、定期的な家庭訪問を行い、それぞれのクライアントのニーズに耳を傾け、そのニーズに合った情報を探し、提供するというケースマネジメントの業務を体験させてもらった。いろいろなクライアントの家庭を訪問したが、日本で思っていたアメリカのイメージと現実との違いを感じ、アメリカ社会もまだまだ多くの問題(人種差別や医療制度の問題など)を残しているということを学んだ。

- 来学期の抱負

毎月の生活記録において述べたが、アメリカの大学院での勉強は並大抵ではなく、学期中は、怒涛のごとく、自分にとって嵐のような月日が過ぎていった。また春学期も同じような生活が待ち構えていると想像するだけでもぞっとするが、来年卒業した自分を想像してがんばっていきたく思う。